

清水崇さんが映画と前橋を語る

昭和60年に出版された角野栄子さんの児童文学『魔女の宅急便』。13歳の主人公キキが一人前の魔女になるために、見ず知らずの町で暮らし、ほうきで荷物を届ける「宅急便」をしながら成長していく物語です。スタジオジブリのアニメーション映画としても有名なこのファンタジーを、本市出身の映画監督・清水崇さんが実写化しました。2月25日にユナイテッド・シネマ前橋で開催された特別試写会とトークイベントに出演するために帰郷した清水監督に話を聞きました。



魔女の宅急便を手掛けた経緯

「4〜5年前にこの映画のプロデューサーから、魔女の宅急便を実写化したい

長編映画だった。

「ファンタジーに実写ならではのリアリティを出すことに、苦労とやりがいを感じました」

映画監督に関心を持ったきっかけ

18歳まで本市で過ごした清水さん。小さい頃はいつも友だちと外を走り回っている活発な子どもだったが、本と映画も好きだった。

「本を読んでいるときは、集中して静かにしていました。映画館では、同年代の子どもたちが飽きて動き回っている、最後までおとなしく観ていました」

映画の世界を意識したのは、10歳のときに米国のSF映画『E.T.』を観たことがきっかけ。

「当時の自分と同世代の少年が主人公の、怖さ、驚き、笑いがあるストーリーに感動しました。また、映画のパンフレットに載っていたステイブ・スピルバーグ監督を見て、映画に出いていない人が、なんでこんなに目立っているのだろうと思いました」

郷土への思い

盆と正月には家族で帰省し、子どもたちとプールに行ったり、実家周辺のほか、

問い合わせは
市政発信課 ☎027-898-6642

という話をもらいましたが、ホラー映画のイメージの自分に、なぜ話を持ってきたのだろうとびっくりしました」

清水さんは、『呪怨』や『輪廻』などを手掛けたホラー映画の第一人者だが、ファンタジーも好きだという。

「自分の中ではホラーとファンタジーはかけ離れていません。ホラーはファンタジーの一部を凝縮したものだと思っているので、オファーが来てうれしかったですね。ただし、原作者の角野栄子さんに承諾していただけるか心配でした」

その後、角野さんからもファンタジーとホラーは同じと言われて、ためらわずに引き受けた。ホラー以外では初めての

敷島公園やばら園を散歩したりして楽しんでいる。たむらやの味噌漬けと登利平の鳥めし弁当を食べるのも楽しみの一つだという。

「帰るたびに懐かしい場所が少しずつ変わっていることを感じます。新しくなった場所もあれば、逆に寂しくなった場所もありますね」

同じ本市出身の映画監督である小栗康平さんが、群馬県を舞台にした『眠る男』を制作（このとき、清水監督は見習いスタッフとして参加）したように、いつかは本市を舞台にした映画を作ってみたいという。

「今までホラー映画を主に手掛けてきました。ホラーは人によって好き嫌いはつきりしていますので、ホラーのイメージを前橋市に持ち込んでいいのかという気持ちはあります。でも、作るなら多くの人たちに観てもらえるジャンルでチャレンジしたいですね。ただし、オーソドックスなものでは映画自体も面白くないし、前橋の売り込みとしても弱くなってしまう。まだ具体的には考えていませんが、知恵を絞って、乗り越えていきたいと思っています」

かつて清水少年が覚えたような感動を、今度は多くの子どもたちに与えてくれるに違いない。

清水崇監督プロフィール

- 1972年 前橋市に生まれる。
- 1991年 近畿大で演劇を専攻。
- 1994年 故郷・群馬県の製作映画『眠る男』に見習いスタッフとして参加。
- 1995年 上京し、小道具担当から助監督に転身。さまざまな監督の元、十数作の映画やVシネマ、TVドラマでフリーの助監督に。
- 1997年 助監督業の傍ら、映画技術美学講座（現・映画美学校）に通い、映画監督・黒沢清、青山真治、高橋洋、塩田明彦らの講義を受ける。
- 1998年 黒沢清、高橋洋監督の推薦で関西テレビの短編枠で監督デビュー。
- 1999年 前年の短篇を機にオリジナル脚本によるVシネマ『呪怨』『呪怨2』を監督。
- 2000年 Vシネマ『呪怨』が口コミで話題となり、『富江 re-birth』で劇場映画デビュー。
- 2001〜2003年 劇場版『呪怨』（2002年）『呪怨2』（2003年）が立て続けにヒット。劇場版『呪怨』の準備中、アメリカ版リメイク化の依頼を受ける。
- 2004年 ハリウッドでサム・ライミ監督プロデュースの元、『The Grudge』を監督。日本人監督初の全米興行収入No.1を2週連続で果たす。
- 2006年 『The Grudge2』では、シリーズ2作連続の全米No.1を獲得。
- 2014年 実写版『魔女の宅急便』が公開。



『魔女の宅急便』

全国の映画館で上映中

清水崇監督がメガホンを取った、角野栄子さん原作『魔女の宅急便』は、全国の映画館で上映中です。主演の小芝風花さんのみずみずしい演技が同作の魅力。監督の自信作をぜひ劇場でご覧ください。



『魔女の宅急便』2014年3月1日出全国ロードショー
監督：清水崇 原作：角野栄子（角川文庫刊・福音館書店刊）
脚本：奥寺佐渡子・清水崇
出演：小芝風花 尾野真千子 広田亮平 浅野忠信 筒井道隆 宮沢りえ
(C)2014「魔女の宅急便」フィルムパートナーズ